

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全・再生への提言

東京は、もともと多摩川・荒川（隅田川）・江戸川の大河に抱かれ、武蔵野台地には石神井川・神田川・渋谷川等多くの中小河川が東京湾に注ぐ狭い低地から発達しました。

この土地を一変させたのが、江戸時代初頭に生活用水の供給を目的として多摩川から武蔵野台地の尾根筋を伝い江戸市街地へ至る玉川上水でした。玉川上水は、武蔵野台地に多くの分水をうがち、中小の河川やお濠に注ぎ、世界に誇る水文化都市江戸・東京の形成に大きく寄与しました。

しかし、東京の高度な都市の発展とともに、玉川上水を軸とした水のネットワークは弱まり、水辺環境は大きく変貌してしまいました。

私たちは、この展示・講演を通じ、玉川上水・分水網や外濠・日本橋川等の水循環が生み出す自然・歴史文化的価値を再認識し、清らかな水の流れを復活するとともに、生命を育み緑豊かで風の通りともなる美しい水路や濠、川を再生すべきと強く感じました。

それは、歴史的遺産を現代に蘇らせて文化的価値を高め、省エネルギー型の都市環境の形成に寄与するとともに、首都直下型地震等に備える防災用水網を構築することでもあります。

私たちは、関係者へ理解と協力を求めながら、世界に誇れる美しい水都・東京を実現するべく、一步一步努力を重ねていくことが大切と考え、次の提言をいたします。

- 一. 都民をはじめ多くの人々に、玉川上水・分水網や外濠・日本橋川が有する自然・歴史文化や環境、防災面の価値を知ってもらうため、情報の発掘、共有化に取り組みましょう。
- 二. 東京都および関係する学・官・民からなる研究会を設置し、玉川上水を軸とした水循環システムの再生と水と共生する文化の再構築を図りましょう。
- 三. オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けて、玉川上水へ河川水を試験的に通水、外濠・日本橋川等へ注水することにより水質改善を促すとともに、その効果、影響を確かめながら、長期的に水循環システムの再編に取り組みましょう。
- 四. 美しい水路や濠・川等の復活・再生を促すとともに、玉川上水・分水網などを、都・市区と連携し、まず日本遺産へ、さらに世界遺産への登録をめざしましょう。

平成 28 年 10 月 9 日

玉川上水・分水網を活かした水循環都市東京連絡会・講演参加者有志

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生

わたくしたちは、昨秋開催した第1回シンポジウムにおいて、次の4つの項目に沿った提言を行いました。

- ①市民の玉川上水・分水網に関する活動の推進
- ②玉川上水・分水網の保全再生のための体制づくり
- ③玉川上水への河川水の試験通水
- ④日本遺産・世界遺産登録を目指す取り組みの展開

その後、これらの4項目について、各団体及び関係機関と意見交換を重ねてきました。そしてこの間、「玉川上水ネット」のプロジェクト未来遺産登録や高速道路の地下化を含む日本橋川沿岸のまちづくり構想が大きな話題となりました。その一方で、玉川上水の桜並木復元の可能性、オリンピック・パラリンピック開催地としての外濠のアオコ発生対策、首都直下型地震に向けた対策等については依然として大きな課題として残されています。

このような状況を鑑みて、わたくしたちは、玉川上水・分水網を羽村堰から四谷大木戸、さらには外濠、日本橋川までを一体的に捉えることの重要性を再認識し、水の流れの再生を持続可能な東京の都市形成の基軸にすべきではないかとの想いを強くしました。東京水循環の再生です。そして、早急に取り組むべき課題として、次の項目を本シンポジウムにおいて提言します。

一、玉川上水の起点に当たる羽村堰から外濠、日本橋川へと河川水を試験的に通水し、東京オリンピック・パラリンピック開催に際してアオコの発生を抑制し、日本が誇れる水辺景観を創出すること。

二、試験通水をとおして、下流のお濠・日本橋川の水質浄化の効果、首都直下型地震等を想定した緊急通水のあり方、水循環網への影響、水路構造・周辺自然環境・生態系への影響、史跡・文化的景観への影響、及び水辺利用と維持管理のあり方等について検証すること。

三、このために、大学、公共機関等関係機関、民間企業、及び市民による研究・検証組織としてコンソーシアムを早急に立ち上げること。

四、試験通水の調査及び評価結果に基づき、長期的な玉川上水・分水網のあり方、各地域の特性を活かした水辺環境整備・生態系保全と一体的利活用方策のあり方等について、総合的なビジョンを策定すること。

2017年8月19日

玉川上水分水網を生かした水循環都市東京連絡会
第2回シンポジウム参加者賛同者一同